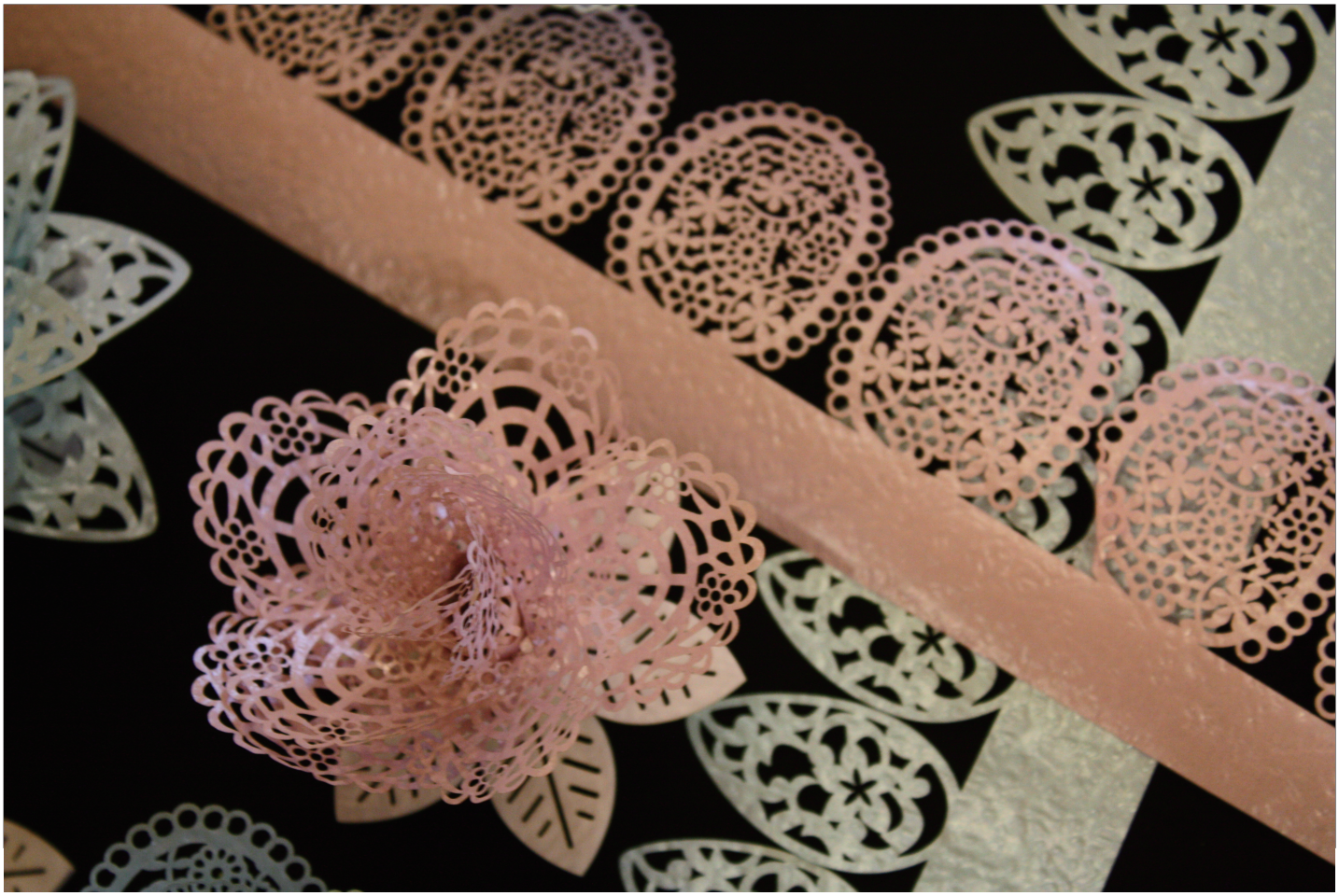
Lace Flower

静岡文化芸術大学　　池谷 友弥



今回この作品を制作するにあたり、レーザーの細かい加工能力、平面加工という特徴を活かし、紙という平面の素材から立体を生み出すことができないかと考えた。
紙を立体にする手法は様々である。日本で代表的なのは折り紙である。また、ペーパークラフトのように紙に切れ込みを入れかみ合わせることで立体を表現をしている。
本作品では、「巻く」という手法を用い、平面を立体に変化させるという表現を目指した。
モチーフである花という複雑な構造をしたものもこの技術を用い、デフォルメすることで、一枚の平面から造花のそれとは異なる、より装飾的な花を生み出すことが可能である。
また、この「Lace Flower」は組み立てる際に接着剤棟を必要としないため、出荷時にあらかじめ組み立てる必要がない。そのため、平面のまま出荷できるというのは、生産的にも効果的である。さらに、ユーザー自身で組み立てるという楽しさも生まれる。
今回は、モチーフを花に選択したが、この手法を利用することで、様々な形状や素材に応用化のだと考える。
素材に関しては、食品等にも有効であると考える。